①施策名	施策目標３－２　大学などにおける教育研究基盤の整備
②主管課 及び関係課	（主管課）大臣官房文教施設部計画課（課長：大島寛） （関係課）高等教育局大学課（課長：合田隆史）／専門教育課（課長：徳久治彦）／ 医学教育課（課長：村田貴司）
③基本目標 及び達成目標	【基本目標３－２】 国立大学等施設を重点的・計画的に整備し、大学などにおける教育研究基盤の整備を図る。 （達成目標３－２－１） 国立大学等施設緊急整備５か年計画に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設について重点的・計画的に整備を行う。 （達成目標３－２－２） 大学改革と一体となった施設の効率的・弾力的利用を図る。
④現状の分析と 今後の課題	世界水準の高等教育，学術研究等の中核的な役割を果たす国立大学等では，施設の老朽化・狭隘化が大きな課題となっており，科学技術基本計画(H13.3.30閣議決定)において，その改善が国の最重要課題と位置付けられた。文部科学省では，これを受け「国立学校等施設緊急整備５か年計画」（以下、「５か年計画」という。）を策定し，今後，約1,100万㎡の施設整備需要が見込まれる中，特に緊急度の高い約600万㎡について重点的・計画的に整備を実施することとしたもの。 国立大学等施設における老朽化・狭隘化の改善については，従前より，緊急性の高い事業から優先的に措置してきたが，大学改革等に伴う大学院生の増加や，学術研究の高度化・多様化等によって施設が不足し，さらに，高度成長期に建設された施設が建築後３０年を経過してきていることなどから，老朽化・狭隘化は一層深刻な課題となってきている。 このようなことから，これらの改善に向け，現在，５か年計画に基づき施設の重点的・計画的な整備を実施しているところであり，平成１４年度予算においても，1,464億円（34万㎡）の予算を確保し整備推進を図っている。 今後とも、ＰＦＩの活用等による効率化を進めるとともに、必要な予算の確保に努め，重点的・計画的な整備を着実に実施していくことが必要である。 ［進捗状況］　（単位：万㎡） 区　分 / 整備目標 / 実施状況 / 割　合 大学院充実等に伴う大学院施設の狭隘解消等 / 122 / 76 / 62.3% 卓越した研究拠点等 / 37 / 19 / 51.4% 先端医療に対応した大学附属病院 / 50 / 27 / 54.0% 老朽化した施設の改善整備 / 388 / 108 / 27.8% 計 / 597 / 230 / 38.5% ※　実施状況：平成１２年度補正予算から平成１４年度当初予算までの計 国立大学等の施設は，高等教育，学術研究の進展などの様々な時代の要請に応えながら，教育研究と一体的な整備が行われ，教育研究活動の基盤を支えてきたが，５か年計画の実施に際し，施設の一層の効率的・弾力的利用を図る観点から，施設の点検・評価の必要性，具体的な点検・評価項目及び点検・評価に基づく対応方策の考え方等をとりまとめた報告書（国立大学等施設の点検・評価について（中間まとめ）H12.4.19，（最終報告）H14.4.22）とともに，学内における点検評価の体制づくりや点検評価への積極的な取り組みについて通知している。 このような取組の中，学内における点検・評価の体制づくりや施設の有効活用に関する規定を整備するとともに，積極的に点検・評価を行っている国立大学等が増えてきており，今後とも，規定に基づき施設の点検・評価を継続的に実施し，施設の有効活用に努めることが必要である。 なお，５か年計画は，点検評価に基づき重点整備すべき施設を厳選して実施している。

⑤指標

指　標　名	９	１０	１１	１２	１３
国立大学等施設緊急整備５か年計画の達成状況	－	－	－	50万㎡ (8.4%)	196万㎡ (32.8%)
全学的視点に立った施設の有効利用のための体制づくりの整備状況	－	－	－	156校 (92.3%)	166校 (98.2%)
施設の有効利用に関する学内規定の整備状況	－	－	－	80校 (47.3%)	118校 (69.8%)

備　考	※ 指標の各年度の数値は累積値であり，また，（　）内数値は，達成目標に対する累積割合である。(3-2-1：600万㎡，3-2-2：169校)

大学などにおける教育研究基盤の整備

国立大学等施設緊急整備５か年計画

～世界水準の教育研究成果の確保を目指して～

【第２期科学技術基本計画】
平成１３年3月３０日閣議決定

国立大学等の施設整備について，最重要課題として位置付け，科学技術振興のための基盤整備として重点的に取り組む。

【国立大学等施設の課題】

国立大学等施設においては，経年による老朽化や機能劣化，大学院学生等の飛躍的な増加等による狭隘化が進むなど，その対応が喫緊の課題。

今後整備が必要な面積
約１，１００万㎡

【国立大学等施設緊急整備５か年計画】

重点的整備

１．優先的目標　約２１０万㎡

(1)大学院施設の狭隘解消等（約１２０万㎡）
総合研究棟を新増築し，若手研究者の育成や，独創的・先端的な学術研究を推進

(3)先端医療に対応した大学附属病院（約　５０万㎡）
高度先進医療や地域の中核的医療機関として一層貢献

(2)卓越した研究拠点等（約　４０万㎡）
世界水準の学術研究拠点の形成及び地域連携や国際学術交流の推進

２．老朽化した施設の改善　約３９０万㎡
高機能の教育研究スペースに再生し，弾力的施設利用による教育研究の活性化を推進

調査・評価

対象施設の厳選

所要経費　最大約1兆6，000億円

システム改革

大学改革と一体となった施設の効率的・弾力的利用

１．各学部等が共有する総合的・複合的な研究棟を整備

２．施設の点検・評価，教育研究の活性度等を踏まえた弾力的施設利用の推進

３．全学的な視点に立った施設管理運営システムの構築

教育研究の活性化

独創的・先端的な学術研究

産業界への成果の還元

創造性豊かな人材育成

社会が求める高度な能力を備えた人材の供給

科学技術創造立国の着実な実現
豊かな国民生活の実現